

礎 ishizue '25



三珠中学校校長室だより
令和7年10月31日発行
No.29
文責 校長 渡邊 康裕



PTA教育講演会

～手話と日本語の劇・夏の夜の夢～

10月27日(月)の午後より、本校体育館においてPTA教育講演会を行いました。今年度の内容は座・高円寺のみなさんによる「ろう者と聴者がつくる『夏の夜の夢』～日本手話と日本語の劇～」の公演です。シェイクスピアの喜劇『夏の夜の夢』をミュージカル仕立てにしたもので、俳優7人のうち1人は日本手話を、6人は日本語を使うという一風変わった演劇です。この日の公演には上野・大塚両小学校の5・6年生と、1年生の福祉講話でお世話になった地域に住むろう者の方々もお招きしました。

▼会場に入るとまず、『これが普段から見慣れている体育館なのか?』と思うような本格的な舞台装置に圧倒されました。座・高円寺の方々がこの日、来校したのは午前8時30分以前。開演の午後1時30分までなんと5時間以上をかけて舞台を設営することになります。上演前、何気なく照明装置の横に立っていたとき、スタッフの方から「照明装置に気をつけてください。もしも少しでも場所がずれてしまうと取り返しのつかないことになってしまうので…。」



という声をかけられ、「この舞台がどれほど緻密な計画のもとに構成されているものなのか」プロの仕事を垣間見た気がしました。▼そして劇が始まります。開始から間もなく、会場にいるすべての人を魅了していく役者さんの演技はまさに全力投球。この姿を見て、『一生懸命の格好良さ』を感じた人も多かったのではないかでしょうか。役者さんの中には生まれた時からまったく耳の聞こえないろう者の方々がいました。



間合いの取り方から細かな動きまで、他の役者さんとぴったり息のあった演技の裏には手話通訳の方々、大変な努力があったことでしょう。▼この公演の最大の目的は『扱う言葉で区別するという思い込みから自由になり、ろう者と聴者が共に生きる世界を感じつつ、舞台芸術鑑賞の面白さを存分に体感する』ことです。この日、三珠中体育館に集まった人々が共有した時間は、まさにこの目的が達成された素敵なお時間になりました。▼



この会でもうひとつ素晴らしいと思ったことがあります。それは終演後、生徒会長が行ったお礼の言葉です。全校生徒を代表して、『今日は素晴らしい演劇をありがとうございました。前回(7月)、みなさんと演劇をつくれて嬉しかったです。』と手話で感謝の気持ちを伝えました。生徒たちの「学びが深まった」と感じた瞬間となりました。▼今日は三珠中に来ていただき、ありがとうございました。手話を使いながらの劇を見るのが初めてで、すごく楽しかったです。しかも、みんな明るくて、見てる人みんなが笑顔になられました。これからも頑張ってください!! ▼手話を使った劇があることを知れたよい機会でした!私の家族が手話を習っているので、私も手話に興味がありました。耳が聞こえなくても手話を通じて色んな人と交流できるのは「いいな」と思いました。(講演会終了後、座・高円寺さん宛てに、生徒が書いた感謝の言葉より抜粋)

